



北斗

ほくと

テスト・入試に挑戦！



1月8日、9日に、地区実力テストが行われました。

2年生の皆さんにとって、学校で受ける初めての地区実力テストでしたので、緊張もあったと思います。廊下から様子を見たところ、いつも以上に集中して取り組む姿がありました。

今までの学習を振り返り、自分の得意な領域や定着が十分といえない領域を知る機会は、今後の進路を実現する上でも、大切なプロセスです。

得点が高かった、低かったに一喜一憂する必要はありません。自分がこれから3年生になる前に、どのように取り組むことで成長につながるのかを考える機会にしてください。

1月11日には、附中入試が行われました。9日には、全校生徒で協力をして前日準備を進めてくれました。当日の朝には、2年生の生徒代表が受付や誘導の補助をしてくれたおかげで、スムーズな教室への入室や検査の準備ができました。小学6年生の児童は、学習の成果を十分に発揮して合格をつかもうと、真剣な眼差しで挑戦していました。

検査の結果はすでに家庭に送付されていますので、4月からの入学に胸を膨らませている児童もいるのではないかと思います。在校生は、その期待に応えることができるよう、よりはらしい雰囲気や環境づくりに努めましょう。

そして、3年生は今日から私立高校（宮崎県内）入試です。自分の今まで取り組んできた頑張りが成果としてあらわれるよう、支えてくれている人のことを思い起こし、集中して臨んでくれることでしょう。

練習と継続の大切さ



附属中学校では1か月に1回程度、昼食時間に放送を使って表彰をしています。放送室と各教室をオンラインでつなぎ、各種コンクールや大会で優秀な成績を収めた生徒を称賛します。表彰を受ける生徒の皆さんには、自信あふれる晴れやかな表情をしてくれます。

日頃の学校での学習以外にも、作文、書道、音楽、美術、スポーツ、科学やプログラミングなど、多様な分野に挑戦をしていることを嬉しく感じています。今頑張っていることを、生涯にわたって楽しむことができれば嬉しいですね。

高校入試の面接において「趣味や特技を教えてください。」という定番の問い合わせがあります。私自身を省みると「書道です。」と答えていたと記憶しています。大学生の頃までは地味に続けた書道でしたが、もう30年以上練習をしていません。当然、上手に書く自信もありません。

何事に対してもそうですが、継続することほど強いものはないと感じています。県外に住む大学時代の友人に、PTAの実践記録集の表紙の揮毫（文字を書くこと）をお願いしたところ、快く引き受けってくれました。九附連宮崎大会のテーマを書いてもらいました。「共に」は生徒、教職員、保護者、その他学校を取り巻く方（応援してくれる方）すべてが含まれています。

友人の活躍を遠方から見ていますが、50年間続けている圧倒的な「ちから」に刺激を受けます。

今後配付する記録集の文字とは異なるバージョンです。



伝えたい言葉

共に集まることが始まり 共に働くことが成功
ヘンリー・フォード

令和8年1月28日発行

多様な体験を

外部講師による講話

1月19日には1年生、20日には2年生で、外部講師を招いての授業が行われました。

1年生の授業では、延岡市にある老舗菓子店「風の菓子 虎彦」の代表取締役社長 上田耕市様をお招きし、以下のような話を通して、これから生き方の示唆をいただきました。

- ノックをすると自分の世界が広がっていくこと
- すべてのものには意味があること
- 例 「あいさつ」···人と人とか物事を進める際に大切なこと
- 一番美しい日本語「ありがとう」を使うことの大切さ



講話をされる上田様と1年生



上田様からいただいた講話の内容資料

生徒たちは、話を聞いて感じたこともとに、多くの質問をし、考えを深めることができていました。

2年生の授業では、宮崎大学地域創成学部教授 西和盛様はじめ、JAみやざき高千穂地区本部、地域の生産者、茶業振興会、宮崎県等の関係者をお招きし、「宮崎の未来を拓く：お茶と農業の探究授業」をしていただきました。多くの講師の方がコラボレーションすることで、複数の視点から考えを深めることができます。キャリア教育、地域理解、探究・課題解決につながる学びになりました。釜炒り茶と煎茶の飲み比べ体験などもあり、ペットボトルのお茶が当たり前になりつつある時代に、本物のすばらしさを実感できる経験をすることもできました。

生徒は、外部講師の方から多くの学びや刺激を受けることができます。引き続き、大学やその他の機関の協力をいただきながら、生徒にとって益ある経験を計画していきたいと考えています。



部活動の様子



部活動においては、3年生が引退し、どの部活動でも2年生、1年生が中心となり活動しています。放課後に巡回してみると、熱のこもった練習が展開されています。練習に加え、練習試合（講習会）や各種大会を通して、チーム力を高めてほしいと思います。

1月25日には、合唱部がメディキット県民文化センターで行われた県ヴォーカルアンサンブルフェスティバルに、吹奏楽部が西都市民会館で行われた県吹奏楽 Winter Cupに出場しました。

合唱部は、混声合唱（4名）と女声合唱（15名）に出場しました。混声は、1年生男子2名、2年生女子2名で演奏し、とても美しいハーモニーを奏でました。1年生とは思えない堂々としたもので、全国大会の経験が生きていると感じました。女声は福山先生の指揮のもと、「歩く」という言葉を様々な声色や抑揚で表現し、迫力も出てきました。結果、混声は銀賞でした。女声は金賞で3月の全国大会の推薦をいただきました。おめでとうございます。

吹奏楽部は、17名で出場し、「ロマネスク」「南風のマーチ」の2曲を披露しました。大学の菅教授が指揮を務められ、会場いっぱいにすてきな音が広がりました。結果は銀賞でした。夏に向けて、さらに磨きをかけてくれることを期待しています。